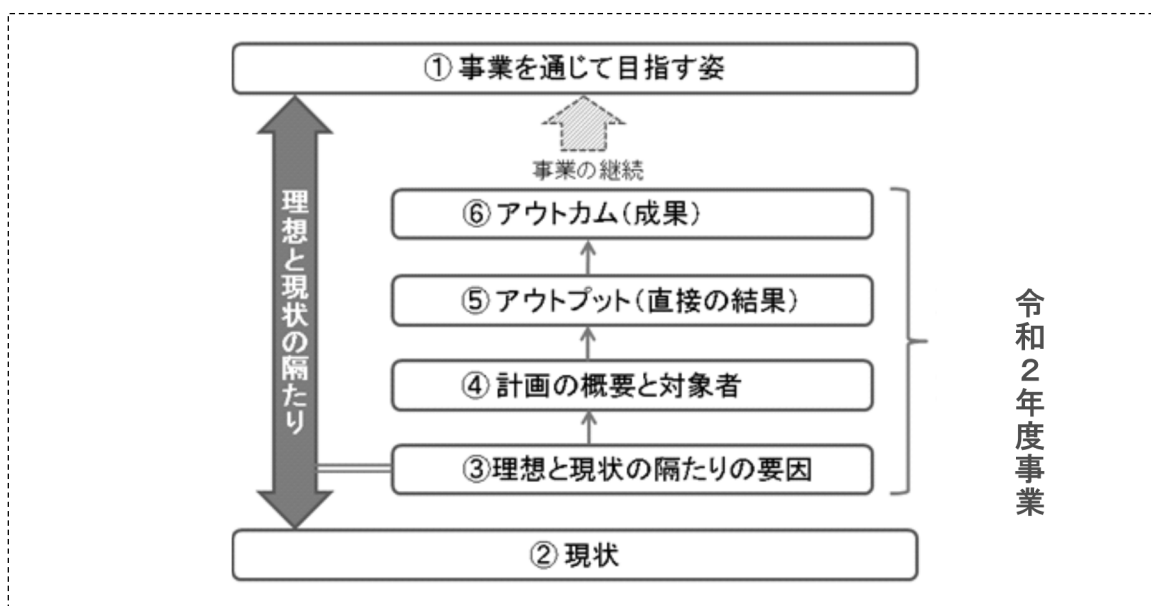


事業計画書

◆記入する項目の関係図

事業名		地域からの発信、高校生と生物多様性をつなぐプロジェクト
グループ名		チーム小さな生き物たち
代表団体	名称	(公材) 水島地域境再生財団
	住所	〒712-8034 倉敷市水島西栄町 13-23
	担当者	藤原園子
	電話番号	086-440-0121
	E-mail	fujiwara@mizushima-f.or.jp

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



◆アウトプット(直接の結果)とアウトカム(成果)について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。アウトカムには、アウトプットに直結した短期のものと、目指す姿へつながる長期のものがあります。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、○○○というアウトプットが生じ、次にその成果として、△△△というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施→アウトプット→アウトカム

◆ アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム（短期）	アウトカム（長期）
学習支援事業	学習会の開催	月4回、各回20名参加	参加者の学習意欲の向上	家庭での学習習慣の定着
就労支援事業	冊子作成・配布	1千冊作成、800人に配布	就労に必要な知識の習得	就労の定着、経済的自立
保護者支援事業	居場所の運営	週2回、各回15名参加	育児の負担感の緩和	子どもの健やかな成長
移動支援事業	高齢者の送迎	週2回、各回5名利用	移動手段の選択肢の増加	移動困難者の減少

1 事業を通じて目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。事業の実施により、地域課題が改善に向かった後、「どのような地域・人が、どのような状態になっていることを目指すのか」について、具体的に記入してください。

豊かな自然環境に恵まれている高梁川流域で、地域独自の人と自然のかかわりを次世代が学び、生存基盤そのものとして重要であることを理解し、人と自然の共生を考え、行動できる状態

2 現状

1「**事業を通じて目指す姿**」と比べて、現状はどのような状況にありますか。「どのような地域・人が、どのような状況にあるのか」について、具体的に記入してください。

- ・生物多様性の問題は、生物が好きな一部の人の問題にとらえられている。
- ・地域住民の維持管理によって地域独自の生物多様性や自然の恵みがかりうじて維持されているということが知られず、次世代の人知らない。
- ・次世代にその重要性が伝えられず、環境管理方法が引き継がれていない状態が続けば、高齢化とともに担い手が不足し維持管理が重荷となり、環境が損なわれる。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

1「**事業を通じて目指す姿**」と2「**現状**」との隔たりを生み出している、主な原因はどのようなものと考えますか。

- ・現在の子育て中の世代が子ども時代に時代の変化で自然体験が不足し、自然の中での発見の楽しさやワクワク感を知らず、次世代に引き継がれず、断絶がある。
- ・生物多様性について、中高生時代の教科書の中で学ぶだけで、実際の現場で学ぶ機会がない。受験科目としての勉強にとどまっている。

4 計画の概要と対象者（令和2年度）

（1）事業の形式

次のいずれか該当する事業の形式に☑をしてください（両方でも可）。

- ☒ 実践を通じてグループ内でノウハウを受け継ぐ事業
- ☒ グループ内の団体それぞれが持つノウハウを持ち寄り、地域の新たな催しや地域資源を開発する事業

（2）計画の概要

3 「目指す姿と現状の隔たりの要因」を取り除くため、どのような事業を実施しますか。
「どのような地域・人に対して、どのような活動を行うのか」について、簡潔に記入してください。（※計画の詳細は下記7に記入してください）。

高梁川流域圏に住む中高校生を対象にした、地域独自の環境管理と生物多様性を学ぶ動画を作成する。高校生自身の言葉で同世代に伝える動画と、インタビュー記事、並びにパンフレットを作成する。

生き方、進路を考える中高生時代には、ロールモデルとなる大人の存在が重要である。矢掛町の一ノ瀬川で生き物と関わり、里山のすばらしさと大事さを語り、地域環境の維持管理を仲間と楽しく行っている大人の姿を生物多様性アンバサダーとして今年度活動している笠岡在住の高校生が取材する。

5 アウトプット（直接の結果）

（1）事業を通じて提供するサービス

事業を通じて、「どのような地域・人に対し、どのようなサービスを提供するのか」について、具体的に記入してください。

高梁川流域にすむ若者が同じ地域に住む若者に伝えるという方法で、地域独自の環境管理、生物多様性の重要性を学べる教材としても活用できる動画・インタビュー記事・パンフレットを提供する。

（2）アウトプットを測る指標と数値目標

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
動画閲覧数	0 件	動画閲覧数 100 件
動画へのコメント数		コメント 20 件

事業のアウトプットを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

(3) アウトプットの測定方法

事業を通じて、アウトプットを測る指標をどのように測りますか。数値目標の達成状況を把握できる、具体的な方法を記入してください。

動画の閲覧数と、コメントの数を数える。

6 アウトカム（事業の成果）

(1) 長期のアウトカム

1 「**事業を通じて目指す姿**」の一段階手前の状況はどのようなものですか。最終的に実現しようとしている、地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

同世代の生物多様性アンバサダーがナビゲーターとなることで親近感を持てるようにすることで生き物好きを増やし、さらにもう一歩進んだ、生物多様性を守ることが人間の生存基盤を守ることにつながることを理解し、自分自身の未来とのつながりを理解できる中高生が増える。

(2) 短期のアウトカム

今年度の事業のアウトプットを通じて、実現したい成果はどのようなものですか。アウトプットから今年度中に導かれる地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

新型コロナウイルスによって学ぶ場や機会が激減している高梁川流域圏に住む高校生が、動画・インタビュー記事を見ることで、「活動が楽しそう」、「高梁川流域の自然ってすごい」、「こんなに素晴らしい人があるんだ」と興味をもち、フィールド活動への期待が増している状態。

(3) 短期のアウトカムを測る指標と数値目標

事業のアウトカムを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
高校生からの生物ならびに生粒多様性に関する意見・質問の数	0 件	意見・質問 20 件

7 計画の詳細

(1) 事業の具体的な内容

※内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらい等を具体的に記入してください。

1. 動画制作

高梁川流域圏に住む中高校生を対象にした、地域独自の環境管理と生物多様性を学ぶ動画を作成する。生き方、進路を考える中高生時代には、ロールモデルとなる大人の存在が重要である。矢掛町の一ノ瀬川で生き物と関わり、里山のすばらしさと大事さを語り、維持管理を仲間と楽しく行っている姿を伝えるために、撮影・編集・発信する。

□「高校生に贈る 生物多様性メッセージ あなたの未来とともに」

2020 生物多様性アンバサダーを西日本地域で務めている2名をナビゲーター（案内役）として講師依頼する。

【内容】一ノ瀬川で活動する日妻クリーンクラブ田賀辰也氏をたずねる

生き物調査のレジェンド、調査の様子を間近に見る

森と川のつながりがどうして大事なのか

住民自身が管理するってどんな風？仲間づくり最初の一步

2. インタビュー記事制作

動画に掲載しきれなかった田賀氏の発言を記録として残し文字情報として発信する。

掲載場所想定：日妻クリーンクラブ会報、みずしま財団たより、同 HP、関連団体 HP、SNS 等

3. パンフレット制作

高梁川流域圏に住む中高校生や大学生を対象に、高梁川流域の生き物、里山の多様性と重要性、維持管理の仕方などを伝えるために、パンフレットを作成する。

- ・野外で活動するときの注意点を田賀辰也氏からのアドバイスとして文章に入れる。
- ・田賀氏が撮影した生き物の写真をカラー印刷で入れる。
- ・ナビゲーターが伝えたい生物多様性のメッセージを入れる。

送付先想定：高梁川流域圏の高等学校30校程度（生物部）、流域圏の大学で野外活動を行う研究室（5研究室程度）、野外活動を実施する団体・NPO等20団体程度

(2) 事業のスケジュール(準備～実施～報告)

7月	準備 下見、動画全体の流れを考える
8月～9月	撮影 動画編集
10月	動画に載せきれない部分をインタビュー記事として制作 パンフレット原案作成
11月～1月	動画試作版を高校生に見てもらう
2月	完成させて、一般公開する
3月	報告する

8 ノウハウとその有効性

ノウハウとは、団体が過去に実施した活動の中で習得したり、成功や失敗の経験から得たりした、地域の課題解決に有効な手法や技術などの蓄積を言います。それぞれの団体が有す

日妻クリーンクラブ(矢掛町 一ノ瀬川)

【ノウハウ】

- ・住民による河川の環境管理
- ・生物観察調査をともなう管理
- ・自由意志参加での緩やかな組織と継続のしくみ
- ・住んでいる人が楽しみながら、継続し管理するノウハウ

【事業への活用】

- ・動画制作の場(一ノ瀬川周辺の里山)の提供
- ・生物の専門家の存在

みずしま財団(倉敷市)

【ノウハウ】

- ・20年続く市民参加型調査活動「八間川調査」での環境学習の方法
- ・立場の異なる主体との協働の場づくり

【事業への活用】

- ・若い世代の学びの場の提供
- ・コーディネート力、人的ネットワーク

るノウハウの内容と、それを事業にどのように活かせるのかについて、具体的に記入してください。

9 事業完了後の取り組み

補助金の交付条件として、事業の完了後1年以内に、事業の成果を活かした取り組みを実施することとしています。事業の成果が継続して地域に根付くのに有効な取り組みであれば、その規模や内容は問いません。事業完了後に予定している取り組みの内容を具体的に記入してください。

(1) 事業の実施主体となる団体名

(公財)水島地域環境再生財団

(2) 事業完了後の取り組みの概要

- ・作成された動画を岡山市内高校にPRし探求学習等の教材として活用してもらう。
- ・パンフレットを高校や大学、団体へ配布し、野外活動に行く前の注意点を確認してもらうように、PRする。

10 SDGs との関係

次のSDGsの17のゴールのうち、申請する事業に関係する番号を選び、1～2個記入してください。なお、当補助金の要件を満たせば17（パートナーシップで目標を達成しよう）に該当しますので、あらかじめ記入しています。

① 17 ② 15 ③ 4

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 
5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさを守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 
SDGsとは 2030年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標です。経済・社会・環境の諸課題の統合的な解決を目指し、17のゴールは基本コンセプトである「だれ一人取り残さない」を実現するために、分野別の目標としてまとめたものです。			17 パートナーシップで目標を達成しよう 

収支予算書

	所属・役職	氏名
経理責任者	事務局長	藤原園子
経理担当者	事務	藤田由起子

1 収入の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
補助金		735,000	※千円未満切り捨て、上限 750 千円
その他			
収入合計		735,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
人件費 266,000	現地解説・資料提供 企画遂行・台本作成 原稿制作 事務・パンフ作成 撮影	80,000 80,000 54,000 40,000 12,000	8,000×10 人日 (日妻クリーンクラブ) 8,000 円×10 人日 (みずしま財団) 900 円×3 時間×20 人日 (アルバイト) 900 円×3 時間×15 人日 (アルバイト) 900 円×3.5 時間×2 人日 (みずしま財団)
謝金 80,000	ナビゲーター/台本作成 パンフレット原稿 インタビュー原稿	40,000 20,000 20,000	@10,000×2 名×2 回 @10,000×2 名 @10,000×2 名
旅費交通費 58,000	JR JR ガソリン ガソリン 宿泊費	32,000 3,000 3,000 2,000 18,000	外部専門家 大阪⇄矢掛 2 往復 外部専門家 笠岡⇄矢掛 2 往復 スタッフ交通費 2 回分水島⇄矢掛 (往復 50km×2 回) スタッフ交通費 2 回分矢掛町内移動 外部専門家 2 泊分
消耗品費 27,000		10,000 8,000 9,000	コピー用紙、事務用品、SD カード等 コピーカウント 白黒 10 円×200 枚 カラー 30 円×200 枚 IC レコーダー (記録用)
印刷製本費 135,000	パンフレット印刷 インタビュー印刷 インタビュー印刷	75,000 30,000 30,000	生き物の写真掲載・カラー印刷 みずしま財団たより 日妻クリーンクラブ通信

通信運搬費 42,000	郵送費	42,000	@140×300 パンフレット等送付
保険料 2,000		2,000	取材時の調査 保険
使用料・賃借料 5,000	使用料(電気・電話・ 冷暖房)	5,000	電気使用料、公民館冷暖房費
委託料 120,000	動画 編集委託	120,000	
対象経費計		735,000	
食糧費		0	
その他			
対象外経費計		0	
支出合計		735,000	(収入合計と一致)

※金額は切り上げて千円単位で記入してください。